

◆長崎大学に留学したきっかけは何ですか？

私はカンボジアの大学で水産全般のことについて学んできました。そもそも、水産について学ぼうとしたきっかけは、カンボジア人の食文化にあります。カンボジア人は普段から魚介類を食べていますが、その食べ方は生食がほとんどです。例えば市場で魚が余れば、それらは全て廃棄処分されている状況です。日本のように加工して日持ちを良くして後で食べるような習慣はありません。また、多くの人々が魚介類の持つ毒についての知識が乏しいため、警戒心がなく、食べた後に病気を発症したり死亡する事例が後を絶たないという問題もあります。

このようなカンボジア人と魚介類の関係を注目した研究を行いたいと思い、長崎大学への留学を決めました。

◆現在の研究テーマを教えてください。

修士課程では養殖や加工について研究を行ってきましたが、現在の博士課程では魚介類の持つ毒(特にフグや甲殻類)についての研究を行っています。魚介類の毒についてカンボジア人の多くは知識が少ないので、珍しい魚でも好奇心で食べてしまうことがあります。実は、専門家でも毒を持っているかいないかの判断が難しい魚介類はたくさんいるのです。

そこで、カンボジア周辺で獲れる魚介類にはどのような毒を持っているものか、その毒が人体にどう影響するのかを明らかにするため、現地で魚介類のサンプリングを行い、長崎大学で研究を行っています。

留学生のキャンパスライフ



実習で製造中の魚の缶詰 (水産学部内)



沖縄の石垣島で捕獲した魚、カニ、貝の選別作業 (長崎丸船内)



乗船実習から長崎へ戻った時の記念撮影

長崎大学で学んだことや経験を
カンボジアで活かすことが目標です。



「休日によく友達とサッカーをします。日本と同様、カンボジアでもサッカーは国民に人気のあるスポーツ。サッカーの試合をみるとわくわくします。」



インドシナ半島の中央に位置し、タイ・ベトナム・ラオスと隣接しているカンボジア。メコン川と東南アジア最大の湖であるトンレサップ湖の自然の恵みをはじめ、世界遺産であるアンコール・ワットなど数々の貴重な遺跡群や美しい建物が存在する情緒に富んだ王国です。

ニー・ライミトナ さん
NGY LAYMITHUNA
生産科学研究科博士後期課程3年

◆学生生活で得た新たな発見はありますか？

去年の夏、長崎大学の海洋実習船「長崎丸」に乗り、他の研究生とともに、長崎・沖縄間の海洋で2週間の実習を行いました。その時に初めて沖縄を訪れましたが、どことなく、沖縄の雰囲気や故郷に似ていると感じました。「長崎丸」での実習も忘れられない思い出ですが、思わぬところで、カンボジアに似た風景を日本で目のあたりにしたことは忘れられません。

また、日本とカンボジアが違うという印象を持ったのが「食」と「日本人のマナーの良さ」です。日本では、健康に気を使ったヘルシーな食事を心がけている人が多いと思いますが、カンボジアでは肉や卵を使った料理が主流です。そういう面は、カンボジア人も健康に気をつけた食事をするほうがいいと感じました。さらに、日本人がいろいろルールやマナーを守ったり、まわりの人のことを考えて行動することに驚きました。とても良い意識が浸透している国だなという印象を持ちました。

◆ニーさんのこれからの夢を教えてください。

私は、長崎大学で学んだことや経験を活かして、将来、カンボジア人に健康で長生きできるためのアドバイスや指導ができるようになりたいです。具体的には行政やNGOなどの場で活躍できればと思っています。カンボジアに暮らす人々の生活環境が良くなる活動に携われるよう、今は日本でもっと自分の研究を進めていくことが目標です。